

成果指標				
成果指標	松山市急患医療センター市町別受診者の伊予市民の受診割合(前年度実績) = 伊予市民の受診者数 / 松山市急患医療センター受診者総数 × 100			
指標設定の考え方	救急医療体制の維持継続のためには、緊急時の適正受診が大切であり、緊急時の状態に応じた第一次・二次・三次救急医療機関の適正受診が必要であるので、松山市急患医療センター(第一次救急)の前年度のデータから、伊予市民の利用状況の推移を見ていく。松山市急患医療センターの利用割合の現状維持を図ることが必要			
区分年度	24年度	25年度	26年度	
目標	4.5	4.5	4.5	4.5
実績	4.15	4.15	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5	A
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	5	
	有効性	事業の効果	5	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	安心した市民生活の維持のためには、事業を継続し、休日・夜間における急病患者の医療の確保は重要である。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5	A
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	5	
	有効性	事業の効果	5	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	市民が安心できる地域医療を確保するため、夜間・休日在宅当番医制度の継続は必要であり、地域医療や救急医療についてより一層啓発を行い、市民の認識を深める必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。
意見、課題	救急時の適正受診について更に啓発を行なうこと。

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

下記の点を見直しの上、継続する。

意見、課題

二次評価の内容を踏まえ見直すこと。